

《担当者名》高橋尚明 nao-takahashi@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

解剖学は、前期の解剖学で学んだ人体構造の系統別知識の中で、「骨系」と「筋系」、「神経系」の3系統について詳細に掘り下げて修得する。さらにそれぞれの器官系の知識を整理統合する中では、疾病やリハビリテーション科学的な視点から深く掘り下げ、系統別機能解剖学を含む内容を理解する。

【学修目標】

リハビリテーションに関わる専門科目を十分に理解するために、関連の深いリハビリテーション基盤科目とともに人体の形態と構造について理解し、それらの機能を関連付けて理解し説明することができる。また、リハビリテーションに関わる医療従事者として必要な臨床考察力を得るために、特に「骨系」と「筋系」、「神経系」の3系統について必要な機能解剖学の知識を深化し、説明することができる。

1. 脳・脊髄からの神経の分布を理解し、説明することができる。
2. 中枢神経と末梢神経、自律神経について説明できる。
3. 身体を構成する骨の構造と関節構造、骨格について説明できる。
4. 骨の形状による分類を行い、その具体的例を挙げ説明することができる。
5. 全身の骨格を構成する骨・関節・靱帯について理解し、説明することができる。
6. 筋の一般構造と人体における役割について説明することができる。
7. 筋の形状による分類を行い、その具体例を挙げ説明することができる。
8. 身体の運動を構成する全身の筋の付着部と作用、支配神経について理解し説明することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	神経系各論（頭頸部） 1. 脳と脳の機能局在 2. 頸神経叢 3. 腕神経叢と腰神経叢、仙骨神経叢	脳と脳の機能局在 頸神経叢の構造と神経叢から分岐する神経 腕神経叢、腰神経叢、仙骨神経叢の構造と各神経叢から分岐する神経	高橋尚明
2	運動器各論（頭頸部、脊柱と胸郭） 1. 脊柱を構成する骨格 2. 胸郭を構成する骨格 3. 頭蓋骨の構造	頸椎、胸椎、腰椎の椎体構造 脊柱を構成する骨格構造 胸郭を構成する骨格構造 顔面頭蓋を構成する骨について理解する。 脳頭蓋を構成する骨について理解する。	高橋尚明
3	運動器各論（体幹） 1. 体幹の運動に関わる筋 2. 頭部と顔面の筋	旁脊柱筋と固有背筋の種類と作用 頭部に付着する筋の起始、停止、支配神経、作用について理解する。 頸部（喉頭周囲）に付着する筋の起始、停止、支配神経、作用について理解する。	高橋尚明
4	運動器各論（上肢帯） 1. 上肢帯～肩関節を構成する骨格 2. 上肢帯の運動に関わる筋	肩甲骨と鎖骨、上腕骨 胸鎖関節と肩鎖関節、肩甲上腕関節 体幹と上肢帯に付着し上肢帯の運動に関わる筋	高橋尚明
5) 6	運動器各論（上肢帯～肘関節） 1. 肩関節の運動に関わる筋 2. 胸郭～上腕への神経と脈管	体幹から上肢に付着し、上肢の運動に関わる筋 肩甲骨から上肢に付着し、上肢の運動に関わる筋 鎖骨下から上腕にいたる神経と脈管	高橋尚明
7	運動器各論（肘関節～手関節） 1. 肘関節～手を構成する骨格 2. 肘関節と手関節の運動に関わる筋 3. 前腕部～手の神経と脈管	橈骨と尺骨、手骨を構成する骨格 肘関節と手関節の構造、肘関節と手関節の運動に関わる筋 肘関節から手関節にいたる神経と脈管	高橋尚明
8	運動器各論（手） 1. 手内在筋と作用 2. 前腕部～手の神経と脈管	手を構成する骨と関節構造 手内在筋とその働き 手内部の神経と脈管	高橋尚明
9	運動器各論（下肢帯と股関節） 1. 骨盤を構成する骨格	寛骨と仙骨、尾骨 骨盤および股関節の靱帯	高橋尚明

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	2. 股関節を構成する骨格と関節構造 3. 股関節周囲の神経と脈管	鼠径から大腿部にいたる神経と脈管（腹側）	
10	運動器各論（股関節～膝関節） 1. 股関節周囲の神経と脈管 2. 股関節の運動に関わる筋	殿部から大腿部にいたる神経と脈管（背側） 股関節の運動に関わる筋（単関節筋）	高橋尚明
11 (12	運動器各論（膝関節） 1. 股関節の運動に関わる筋 2. 膝関節を構成する骨格と関節構造 3. 膝関節の運動に関わる筋 4. 大腿から膝周囲の神経と脈管	股関節の運動に関わる筋（多関節筋） 脛骨と腓骨 膝関節の構造 股関節と膝関節の運動に関わる筋 膝関節周囲から下腿部にいたる神経と脈管	高橋尚明
13	運動器各論（膝関節～足関節） 1. 足部を構成する骨格 2. 足関節の運動に関わる筋	足関節の構造と関節運動の特徴 足関節の運動に関わる筋	高橋尚明
14	運動器各論（足） 1. 足部内在筋と作用 2. 下腿部から足部の神経と脈管	足部を構成する骨と関節構造 足部内在筋とその働き 足部内部の神経と脈管	高橋尚明
15	まとめ 1. 全身の筋と骨格の機能解剖 2. 解剖学の臨床的考察	身体運動と関節、筋の活動 検査・測定における解剖学的考察 臨床症状における解剖学・生理学的考察 解剖学的視点と治療手技について	高橋尚明

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

授業予習課題 28%

試験 72%

授業予習課題は、課題を全て実施し、提出する。

授業予習課題については、初回授業時に詳細を説明する。

定期試験は返却しないが、個別での問い合わせに対しフィードバックを行う。

【教科書】

坂井建雄 監訳 「プロメテウス 解剖学 コアアトラス 第4版」 医学書院 2022年

【参考書】

平沢興 著 「分担解剖学 解剖学2 脈管学・神経系 第11版」 金原出版 1982年

山田英智 監訳 「図解 解剖学事典 第3版」 医学書院 2013年

野村巖 著 「標準理学療法学・作業療法学 解剖学第5版」 医学書院 2020年

小川鼎三 著 「分担解剖学 解剖学1 総説・骨学・靭帯学・筋学 第11版」 金原出版 1982年

小川鼎三 著 「分担解剖学 解剖学3 感覚器学・内臓学 第11版」 金原出版 1982年

森優 他 著 「分担解剖学 解剖学続巻 組織学・発生学 第10版」 金原出版 1991年

藤田恒太郎 著 「人体解剖学」 南江堂 2003年

ネッター 著 「ネッター解剖学図譜」 丸善 2001年

井上貴央 監訳 「カラー人体解剖学」 西村書店 2003年

【備考】

1. 事前に授業予習課題を配布（配信）する。

2. 教科書に加えて講義時に資料を配布する。

【学修の準備】

1. 指定した教科書、または事前に配布する資料については事前に目を通し、十分な予習を行うこと（約40分）。

2. 事前予習課題に取り組み、指定期日までに提出すること（約20分）。

3. 教科書および講義資料、講義内で解説した内容をもとに十分な復習を行うこと（約40分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP2）作業療法に必要な基礎的専門知識と技術を修得し、科学的思考のもと実践する能力を身につけている。

【実務経験】

高橋尚明（専門理学療法士，死体解剖資格）

【実務経験を活かした教育内容】

理学療法士および解剖学研究の実務経験を活かし、前期から続く基礎医学の重要性ならびに基礎医学と臨床医学のつながりに関して解説を行う。また、系統解剖学の解説を通じて一般臨床医学における症状やその病理を理解していくための知識を講義する。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している